

## 交通案内 新幹線・JR 宇都宮駅から



- 東野バス
  - ・行先：真岡、益子、海星学院、清原球場行など
  - ・乗車：JR 宇都宮駅 西口「14 番」
  - ・下車：宇大前
- JR バス
  - ・行先：清原台団地、清原球場、祖母井、茂木、ベルモール行など
  - ・乗車：JR 宇都宮駅 西口「3 番」
  - ・下車：宇大前
- 関東バス
  - ・行先：宇都宮駅東循環バス（左回り）
  - ・乗車：JR 宇都宮駅 東口
  - ・下車：宇都宮大学前
- タクシー
  - ・乗場：JR 宇都宮駅 東口（乗車時間：約 5 分）



※おすすめは東野バス、本数が多いです。相乗りならタクシーで、1000 円程度。

## 【実施要項】

主催：第 36 回 全国ボランティア推進団体会議

共催：宇都宮大学

日程：2018 年 6 月 30 日～7 月 1 日（土日）

会場：宇都宮大学・峰キャンパス

（〒 321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350）

対象：全国のボランティア・市民活動推進団体の役職員・スタッフ、関心のある方

定員：50 人

参加費：4,000 円

（1 日のみ参加 2,000 円 学割は半額）

懇親会費：2,000 円（学割 1,000 円）

※全費用は 6,000 円です。宿泊は各自ご負担ください。

※懇親会のみ参加も可（応談）

■申込方法：申込書に記入して F A X。申込された方には、事前に FAX・メール等で参加通知を返信します。当日持参してください。

■締切：2018 年 6 月 20 日（水）

■問：認定 N P O 法人とちぎボランティアネットワーク

■電話 028-622-0021

■FAX 028-623-6036

■info@tochigivnet.jp

■http://tochigivnet.com

## 第 36 回民ボラ申込書

■氏名： \_\_\_\_\_ 男・女 ■年代： \_\_\_\_\_ 代 ■e-mail: \_\_\_\_\_

■所属： \_\_\_\_\_ ■役職： \_\_\_\_\_ ■経験年数： \_\_\_\_\_ 年

■連絡先：〒 \_\_\_\_\_

■電話： \_\_\_\_\_ ■FAX： \_\_\_\_\_

全日程参加（参加費+懇親会）  1 日のみ（ 6/30 のみ、 7/1 のみ）  その他（ \_\_\_\_\_ ）

■参加動機 / 通信欄： \_\_\_\_\_

FAX 028-623-6036



… ボランティア・市民活動団体の心・技・体を学ぶ

全国ボランティア推進団体会議（民ボラ）

6/30-7/1（土・日）宇都宮大学

テーマ：**排除/包摂**

と  
**SDGs**

●若者がアブナイ。座間殺人事件、相模原障害者大量殺傷事件、「自殺は権利だ」と主張する普通の学生たち…。

若い世代の心の闇の正体と、闇の現れとしての事件（現象）について「私たちは何を、どうすればいいのか」を考え、社会から排除される外国人の若者、障害者、日本の若者…の社会的包摂について討論する。

●企業活動の「グローバル化の末」の行動変化として、SDGs（持続可能な開発目標）が今年から流行する。公共の課題は、国家が解決を担保するものではなく、企業も含めた民の多様な主体が地域の持続可能性を作っていく社会に変化しつつある。

経済の枠を超えた世界の連帯を、ローカル発=栃木発の SDGs の実践報告とともに考える。

全国ボランティア推進団体会議（民ボラ）とは…

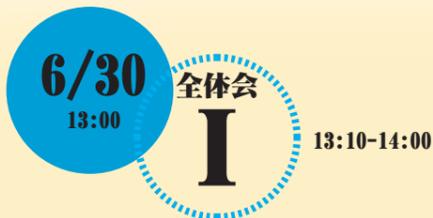
…全国から団体が大阪に集まり、1983 年にスタート！ 36 回目。

民ボラは 1983 年、民間でボランティア活動を推進していた全国の 8 団体 22 人が大阪に集まり、「第 1 回民間ボランティア推進機関関係者懇談会」として始まりました。当初は志を同じくするものが情報交換と交流の場を広げようという目的で開催されましたが、その後、回を重ねるごとに具体的なテーマについて議論するようになり、懇談会から研修会的な要素を盛り込むようになり進歩してきました。会の名称も内容の変化に伴い何度か変更して現在の名称になっています。

この会の大きな特色は「民間性」を常に中心に置き、民間の独自性、独立性を守りながら行政等との公私協働や市民に対してどのような役割を果たしていくかという視点で開催されています。



主催：第 36 回全国ボランティア推進団体会議実行委員会 共催：宇都宮大学 後援：SDGs 市民社会ネットワーク  
 ●世話人団体 / ちば NPO 事業サポートクラブ、静岡県ボランティア協会、大阪ボランティア協会、茨城 NPO センター・ commons、富士福祉事業団、東京ボランティア・市民活動センター、山梨県ボランティア協会、世田谷ボランティア協会、いたばし総合ボランティアセンター、JUON(樹恩)NETWORK、とちぎボランティアネットワーク



## 社会的包摂をどう進めるか

### ～若者の間 / 閉鎖 / 排除～ 不寛容な社会に立ち向かう～

■若者がアブナイ。座間殺人事件、相模原障害者施設殺傷事件、「自殺は権利だ」と主張する普通の学生たち…。若い世代の心の闇の正体と、闇の現れとしての事件（現象）について「私たちは何を、どうすればいいのか」を考え、社会から排除される外国人の若者、障害者、日本の若者…の社会的包摂について討論します。

- 話題提供者 / ■横田能洋（茨城 NPO センター・commons・代表理事）
- 中野謙作さん（栃木若年者支援機構・理事長）
- 担当世話人 / ■鳥羽茂（静岡県ボランティア協会）



### 政治と行政をどのように動かすか

■制度を変える、補助を受けるなど、NPO が気付いたことを制度化することも社会的役割です。どのように議会・議員にアプローチできるかを考えます。地元・栃木の政治家を招きインタビューと討論します。

- 話題提供者 / ■宇都宮市議 1 人、■栃木県議会議員 1 人
- 司会 / ■枝見太朗（富士福祉事業団）
- 世話人 / ■鹿住貴之（JUON NETWORK）
- 鳥羽茂（静岡県ボランティア協会）

### [2]

### 外国ルーツの子どもをどのように包摂するか ～足元に広がるグローバル化と、未来の地域社会に備えよう～

■日本には、工場などで地域経済を支える外国人が暮らしています。低賃金労働者も少なくなく、子どもは言語未習熟による学習の遅れ、不登校や低学歴、発達障がい、ネグレクト、DV、貧困、福祉制度からの漏れ等に直面することもあります。また、住民との関係づくりが進まず、地域社会からの分断が進んでいます。

この課題に取り組む担い手は十分ではなく、学習支援、進路相談、通訳、入試改革、キャリア教育、居場所づくり、保育支援など、官民連携による様々な段階での支援が必要です。グローバル化の進む日本で、未来の多文化共生社会に備え、ボランティアで何ができるか一緒に考えましょう。

- 話題提供者 / ■加藤順彦さん（多文化リソースセンターやまなし・代表理事）
- 横田能洋さん（茨城 NPO センター・commons・代表理事）
- 世話人 ■田辺光正（山梨県ボランティア協会）
- 大野覚（茨城 NPO センター・commons）

グローバル化が足元で進展する中、今後どの地域にも起こりうることです。公的支援はまだ手薄であり、先進的な地域課題とその取り組みについてご関心がある方は、どなたでもぜひ！

### [3] ～現代社会と優性思想に向き合う～ 相模原障害者施設殺傷事件に対して 私たちは何ができるか、何をすべきか。

■26 歳元職員が 2016 年 7 月起こした相模原障害者施設殺傷事件。入居者 19 人を刺殺、26 人に重軽傷を負わせた。「障害者を皆殺しにすべき」「彼らを生かすために莫大な費用がかかっている」という発言もあり、ネットではそれに共感する反応もありました。事件後、セキュリティを強めたり、ボランティアを入れない施設もあります。事件の背景を丁寧にさぐり、わがこととして振り返り、これから取り組むべきことを考えたいと思います。

●話題提供者 / ■実方裕二さん（CAF / ゆうじ屋店主）脳性麻痺の重度障害者。自立生活を選び、料理人 & 経営者として東京・三軒茶屋でケーキの路上販売にも出かける。事件後「生活お見合い」という活動を始める。

- 池田徹さん（社福）生活クラブ風の村・理事長）
- 大橋浩さん（社福）見丘会・障害者支援施設「ひばり」施設長）
- 担当：鈴木佑輔（世田谷ボランティア協会）



- 世話人 / ■鳥羽茂（静岡県ボランティア協会）



### 操業（創業）者に聞く

●市民活動の推進団体も時代とともにボランティア協会、NPO センター、コミュニティ財団など様々になりました。しかし、時代や支援形態が変わっても通底するミッションは変わりません。この企画は、今後の市民活動支援のかたちを考えるために、強固なミッションとパッションを持ち市民活動を創ってきた創（操）業者（理事長、事務局長）から、当時の思いや現在までのプロセスを聞きます。原点と哲学を知り、今後の支援展開を考えるきっかけとします。

- 話題提供者 / ■早瀬昇（大阪ボランティア協会）
- 牧野昌子（ちば市民活動・市民事業サポートクラブ）



- 学食で 18:30-20:00
- 参加費 2000 円（学割 1000 円）
- ※その後は 2 次会に行きましょう。

- 6/30 土
- 13:00-13:10 ●開会
- 13:10-14:00 ●全体会：社会的包摂を……（UU プラザ）
- 14:10-16:40 ●分科会：①政治と行政に…（5C22）
- ②外国ルーツの…（5C21）
- ③相模原事件……（UU プラザ）
- 16:50-17:20 ●全体会：分科会の報告……（5C21）
- 17:30-18:10 ●全体会：操業者に聞く……（5C21）
- 18:20-20:00 ●懇親会 ……………（大学会館）

- 7/1 日
- 9:00- 9:50 ●全体会：ローカル発信の SDGs……（UU プラザ）
- 10:00-11:30 ●分科会 A：子どもを取り巻く SDGs（UU プラザ）
- B：環境と村おこしの SDGs……（5C21）
- C：災害時要配慮者支援……………（5C22）
- 11:40-12:30 ●全体会 分科会報告とまとめ……………（UU プラザ）



### ローカル発信の SDGs ～持続可能な社会のために何が必要か～

●2015 年 9 月に国連で採択された SDGs（持続可能な開発目標）は、私たち市民活動・NPO の活動にどのように役に立つのでしょうか？「2030 年までに世界中のあらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」を目標の 1 と掲げる SDGs になぜ企業が強いコミットメントを示しているのでしょうか？分科会で具体的な事例をお話いただく前に、SDGs の全容をつかみます。

- 話題提供者 / ■新田英理子さん（日本 NPO センター / SDGs 市民社会ネットワーク）
- 担当世話人 / ■熊谷紀良（東京ボランティア・市民活動センター）



### 【A】…子どもを取り巻く SDGs 子どもの貧困撃退円卓会議 =子ども SUNSUN プロジェクト

●昨年「宇都宮の子どもの貧困がなくなるには何が必要か」をテーマに地域円卓会議で議論し、調査してきました。今年（2018）は目標を設定し、必要な志金・人・モノを集め、具体的に事業を創る段階として「子ども SUNSUN プロジェクト」を発足します。子どもの地域包括ケア＝ローカル発の SDGs について途中経過をお話します。

- 話題提供者 / ■矢野正広（とちぎボランティアネットワーク）



### 【B】…環境と村おこしの SDGs 猛禽類サシバで里山のまちの再生と 未来の田舎づくり

●第 1 期の「SAVEJAPAN プロジェクト」で「猛禽類サシバの住む里山」を保全することで、地域の農業と農村の暮らしを再構築する事業に取り組みました。そして 5 年後、これを契機に市貝町では「サシバの里構想」を中心に、官民あげての街づくりになっています。自然保護から町おこし、都会との交流人口増加までの展開を SDGs の視点から話します。

- 話題提供者 / ■遠藤孝一さん（オオタカ保護基金 & サシバの里自然学校）

### 【C】～ Leave no one behind 誰ひとり取り残さない～災害時要配慮者支援での「民間ボランティアリズム」とネットワークのあり方

NPO や施設の周りには、災害時要配慮者が沢山います。しかし、災害時に自身の経験が役立つことを認識していない、危機対応の経験不足、具体的な活動の手立てがない、外部ボランティアや NPO の受入れノウハウが明確でない、などの課題があります。

一方で、災害時の住民リーダーには、要配慮者への適切な対応が浸透しておらず、避難所運営等で課題が目立ちます。災害で「誰ひとり取り残さない」ために、民間ボランティアリズムの力をどう生かせるか、試行錯誤の最前線の取組みからヒントを探ります。

- 話題提供者 / ■小林政夫さん（大阪ボランティア協会）
- 横田能洋さん（茨城 NPO センター・commons 代表理事）
- 担当世話人 / ■大野覚（茨城 NPO センター・commons）



### 分科会報告 SDGs を通じたまとめを試みます。

- 分科会報告と世話人ディスカッションをします。
- 担当世話人：鍋島、熊谷、田辺、鳥羽、神元、鹿住、岡本・永井